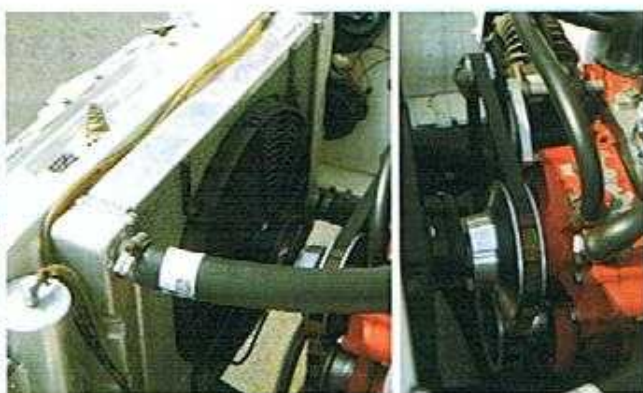




搭載するMOPARパフォーマンス402マグナムは、360マグナムをベースに排気量を拡張したスモールブロックのクレーンモーターで、カタログ数値は433hp、Holley750cfmダブルポンプ、MSDプロビレット・チスビムコイルプラグワイヤー、VAL Hookerヘッドスなど組み合わされる。ラジエターはアルミ製でクーリングファンは電気リカル・タイプを採用、なお、MOPARのドラッグマシンではなんといってもビッグブロックV8をベースにパワーアップしたエンジンに定評があり、このクレーンモーターもどちらかというとストリートにおいて特に過激な性能を発揮するタイプ、取付車はそこにTrienec TKD 5スピード・マニュアルトランスを組み合わせてドラッグ・ストリップでのパフォーマンスを実現した、とはいえ、実際にはそれ用にモディファイされたATが一番有利なかのドラッグレース、つまりこの200ネット・ポストは、ある意味上級者のStreet Stripとも言える、あるいはあまりETにこだわらず、あくまでレースを楽しむ姿勢で組み立てられた1台と考えると欲しい。



となると、最も一般的で親しみ易いのがストリート・ユースのHOT RODで、時にはレースに参戦し、場合によってはその場でタイヤをチェンジしてステータスアップする、というスタイルだ。『HOW TO』のコーナーではこれを『HOT REBEL STRIP』と呼んで純レースカーと区別しているのだが、『』にはそんなカタ「ロー」のマシンのなかから、60年代のNHRAに向けてメーカーが生産したいわゆるスーパー・ストックを要請したプロジェクトは注目してみた。

